

戦時体制下の高島亀太郎の政治活動について (下)

川 東 蛸 弘

目 次

はじめに

- I. 昭和15年
- II. 昭和16年 (以上, 12巻1号)
- III. 昭和17年
- IV. 昭和18年 (以上, 12巻2号)
- V. 昭和19年
- VI. 昭和20年 (以上, 本号)

V. 昭 和 19 年

昭和19年(1944)は、アジア・太平洋戦争の4年目、戦局は決定的不利、敗戦の色濃厚の年です。米軍は2月1日マーシャル諸島のクエゼリン・ルオット両島に上陸し、2月6日には日本守備兵6800名が全滅しました。また、米機動部隊は2月17、18日にはカロリン諸島トラック島を猛爆撃しました。さらに、米軍は6月15日にはマリアナ諸島のサイパンに上陸しました。6月19日のマリアナ沖海戦で日本海軍は大敗北し、空母、航空機の大半を失いました。そして、7月7日にはサイパンの日本守備隊3万人が全滅しました。

さらに、ビルマ方面では、3月以降無謀なインパール作戦が強行されていましたが(参加約10万人)、英印軍の反撃で壊滅し、7月4日には作戦が中止されています(死者3万人、戦傷者4万5000人)。

日本軍の軍事的敗北の中で、東条内閣への批判が高まり、7月18日東条内閣が総辞職し、22日小磯国昭内閣が誕生しています。

しかし、戦局は好転せず、米軍はさらに7月21日にマリアナ諸島のグアムに、

7月24日にはマリアナ諸島のテニヤンに上陸し、8月3日にテニヤンの日本守備隊8000人が、8月10日にはグアムの守備隊1万8000人が全滅し、マリアナ諸島は完全に米軍の支配下に入りました。米軍がマリアナ諸島を攻略した最大の目的は日本本土爆撃の基地を建設することでした。

さて、マリアナでの敗北後、日本軍はフィリピンに主力を結集し、米軍と決戦を挑みましたが、10月24日のレイテ沖海戦で、日本海軍は武蔵、瑞鶴などを失い、またまた壊滅的打撃を受けてしまいます。その後、米軍はフィリピンの日本軍を次々に攻略していきます。

さらに、この年から米軍による本土爆撃が始まりました。6月16日、中国の成都基地のB 29が八幡市等北九州を攻撃し、10月25日も北九州を爆撃しました。さらに、11月から、サイパン基地からのB 29による空爆が本格化しました。11月1日にB 29、1機が東京上空の初偵察を行い、11月24日昼、B 29、80機が東京武蔵野町の中島飛行機武蔵野工場を爆撃しました。以降敗戦まで、連日の如く空爆が続くこととなります。

さて、敗戦濃厚な本年の亀太郎の政治活動について見てみましょう。

1月1日、例年と同様に、亀太郎は、衆議院議員として、新年の拝賀式に臨み、また、神社参拝、年始の廻礼等しています。「朝、家族一同ト共ニ新年ヲ賀シ、雑煮ノ膳ニ就ク。…九時市役所ニ於ケル拝賀式ニ参列シテ、参列者総代トシテ御真影ヲ拝シ、続テ宇和津彦神社及ビ法円寺ニ参詣、又親戚ノ家々へ年始ニ廻礼シテ、午后二時帰宅ス。宅ニモ年賀ノ来客アリ。向ヒ家ノ座敷ニテ屠蘇ヲ進メ接待ス。五時ヨリ更ニ上田市長ノ宅へ行キ、上田氏及ビ薬師神君、河野松衛君ト共ニ碁ヲ打チテ、十時帰ル」。1月2日も年始の客の応対をしています。

1月3日以降は、新しく始めようとしている木工会社の創立手続きや海運業で多忙です。

1月18日、東条内閣下、再開の第84回帝国議会¹⁾(昭和18年12月26日開

1) 第84議会には、昭和19年度予算案のほか、所得税、法人税、営業税、地租等の増税案、石炭配給統制法改正法案、等が出されている。

会、19年3月24日閉会)に出席のため、上京の途につきます。途中、松山と神戸に立ち寄り、21日の朝、東京についています。

1月21日が、休会明けの議会の第1日目です。東条首相や重光外相、賀屋蔵相の演説等を聞いています²⁾。「十一時衆議院へ登院、代議士会ニ列シ、午後一時本会議ニ出席ス。第八十四議会休会明ケノ第一日ニシテ、東條総理大臣、重光外務大臣、賀屋大蔵大臣ノ施政演説、之ニ対スル質問及ビ答弁アリ。五時四十六分散会。六時大東亜会館ニ於ケル議員懇話会ニ出席、南方現地ヨリ帰レル東京新聞ノ報道班員齊藤皋一君ノ実話ヲ聴キ、会食ノ上、八時帰宿ス」。

1月22日は、予算委員会の傍聴、本会議に出席等してしています。「午前十時登院、予算委員会ヲ傍聴シ、午後一時半本会議ニ出席ス。政府提出諸案ノ説明アリテ委員付託トナリ、三時四十三分散会。更ニ予算委員会ヲ傍聴ス。秘密会ニ於テ説明アリ。五時過退出」。

1月23日は、日曜日で、弟の華宵宅を訪れたり、代議士仲間と囲碁をしたりしてしています。

1月24日以降、予算委員会(傍聴)、本会議等に出席してしています。

1月25日は、代議士会、本会議、予算委員会に出席してしています。この日、臨時軍事費370億円が即決されています。「正午登院、代議士会アリテ、午後一時本会議ニ出席ス。本日上程ノ臨時軍事費参百七十億円ヲ予算委員長報告ノ後、

2) 東条は、戦局の不利、敗北には触れず、相変わらず、次のように大言壮語を述べている。「顧ミマスレバ、大東亜戦争勃発以来既ニ二年有余、皇軍将兵ハ御稜威ノ下、愈々善謀勇戦ヲ続ケテ居ルノデアリマス。…我が第一線将兵ハ緒戦ニ獲得セル戦略的優位ヲ活用シ、連綿不断、勇戦奮闘、敵ニ甚大ナル損害ヲ与ヘテ居ルノデアリマス、特ニ最近ソロモン方面ニ於テ、ギルバート方面ニ於テ、又支那方面ニ於テ拳ゲツ、アル所ノ赫々タル大戦果ハ、正ニ其ノ比ヲ見ザルモノデアリマス、唯之ヲ知ラザルハ其ノ指導者ニヨリ目ヲ覆ハレタル米英ノ一般大衆ノミデアリマス、此ノ間敵ノ人的戦力ニ与ヘツ、アル損害ノ如何ニ大ナルカハ、特ニ注目ヲ要スル所デアリマシテ、一人克ク十人ヲ斃サズンバ已マザル皇軍将兵ノ前ニ、不逞ニモ挑戦シ来レル米英軍ノ前途タルヤ、正ニ暗澹タルモノガアリ、彼等ヲ待ツモノハ唯最後ノ敗北ノミデアリマス」と。他方、東条は国内決戦体制の施策について航空機の増産、鉄、石炭等の重要軍事物資の増産、国民勤労体制の強化、輸送力強化、食糧増産の強化と共に、必勝の信念、精神面を強調している。「戦争ハ畢竟意志ト意志トノ戦ヒデアリマス、…最後ノ勝利ハ飽クマデモ最後ノ勝利ヲ固ク信ジテ闘志ヲ持続シタモノニ帰スルモノデアリマス」と(『第八十四回帝国議会衆議院議事速記録』昭和19年1月21日)。

満場一致ヲ以テ即決確定ス。二時過一旦帰宿シ、五時更ニ登院ノ上、予算委員会ニ於ケル秘密会ヲ傍聴シ、戦況及ビ物動計画労務動員計画ニ関スル政府委員ノ説明ヲ聴取シテ、八時帰宿ス」。

1月26日は、午後登院し、予算委員会を傍聴し、夜は上野の寄席に行っています。

1月27日は、午前登院し、本会議に出席し、また、亀太郎は企業整備資金措置法改正案の委員となっています。夜は歌舞伎座に行っています。

1月28日は、午前登院し、本会議に出席し、増税案を可決しています。

1月29日は、午前登院し、本会議に出席等しています。この日、昭和19年度予算案201億円が可決されています。「午前九時過登院、十時ヨリ本会議ヲ開キ、議員一同出席ノ上、昭和十九年度通常予算（經常部臨時部及ビ各追加共）貳百〇一億円ヲ可決確定ス。臨時軍事費予算ヲ合セテ実ニ五百七十億ノ巨額ナリ。十一時四十二分散会。午後一時ヨリ石炭配給外一件ノ委員会ニ出席シテ三時帰宿シ、毛山君及ビ吉田出身横田氏ト共ニ、牛込山伏町羽村氏方ニ於ケル法華津孝治氏主催ノ碁会ニ行キタリ」。

1月30日は日曜日で、甥の中村純一等を訪問しています。

1月31日～2月2日は、石炭配給統制法改正案の委員会に出席しています。重要議案は可決されましたので、2月2日の夜、亀太郎は一旦帰国の途についています（議会はなお継続）。途中、木工会社の所用で名古屋に寄り、また松山にも寄り、6日に帰宇しています。

帰国後の2～3月は木工会社や海運業に従事しています。

さて、昭和19年の戦局は、2月以降、ますます日本軍に不利となっています。2月6日、マーシャル群島のクエゼリン・ルオット両島の守備隊6800人が玉砕しています。また、2月17日には、米機動部隊がトラック島を空襲し、艦船43隻沈没、航空機270機を失っています。さらに2月29日には、米軍はアドミラルティ諸島のロスネグロス島に上陸し、その結果、ラバウル地区が孤立化しています。

敗色濃い中の3月22日、亀太郎は、84議会の閉院式に出席するため、再び上京の途につき、24日の夜、東京にいます。この時、孫の重章を同伴しています。

3月25日が、議会の閉院式です。「予ハ十時半ヨリ衆議院ニ登院。十一時貴族院ニ於ケル議会閉院式ニ参列ス。式後、議員一同宮中ニ参内シ、正午正殿ニ於テ拝謁ヲ賜ヒ、尚豊明殿ニ於テ賜饌アリ。御菓子、御蓑ヲ頂戴シテ退出ス。午後一時半首相官邸ノ茶話会ニ出席ス。東條首相ノ挨拶ニ対シ、岡田議長ノ答辞アリ。陛下ノ萬歳ヲ三唱シテ散会ノ後、院内へ寄りテ三時寄宿ス。重章ハ信子ニ伴ハレ、靖国神社、上野公園、泉岳寺へ行キテ、四時過宿ニ帰レリ。夕食後、予ト重章ノ二人ニテ浅草へ行キ、喜劇ヲ看テ、八時半帰宿ス」。

3月26日～28日は、孫の重章と東京見物をしています。

3月29日の早朝、帰国の途につき、31日に帰京しています。帰京後は家業の木工会社の仕事に従事しています。

3月31日には、米機動部隊がパラオを空襲し、4月22日には、米豪の連合軍がニューギニア北部に上陸、さらに5月27日には、ニューギニア西部に上陸しました。

その間、亀太郎は、4月中旬～6月中旬にかけて、衆議院議員として国民を決起させる総決起運動の準備に従事しています。4月14日には松山に行き、国民総決起運動の連絡協議会に出席しています。「午前八時ノあかつき丸ニテ出発、松山へ行ク。八幡浜ヨリ汽車ニ乗次ギテ、午後一時松山ニ着シ、直チニ県庁貴賓室ニ於ケル国民総決起運動ノ連絡協議会ニ出席ス。相川知事ヲ中心トシテ翼賛、翼政等ノ各団体幹部十数名出席ノ上、国民運動ノ方法ニ就キ打合ヲナシ、三時半閉会ス」。5月16日にも、同様です。「午前七時四十分宇和島駅ヨリ乗車。卯之町経由ニテ松山へ赴ク。午後一時到着、二時県庁参事会室ニ於ケル国民総決起運動ノ協議会ニ出席シ、雪沢知事、貴衆両議員ヲ中心トシテ実行方法ノ打合ヲナシ、四時散会ス」。また、6月11日、12日には、松山の大林寺における国民総決起運動の指導者の打合会に出席しています。「午前五時宇和島自

動車ノ堀端本社へ行キテ乗車，八幡浜へ直行シ，八時四分ノ松山行列車ニ乗継ギテ，十時半着松。直チニ宮古町大林寺ニ於ケル国民総蹶起運動ノ指導者打合会ニ出席ス。中央本部ヨリ翼政会総務ノ津雲国利代議士連絡委員トシテ臨席，雪沢知事等モ参加シテ，午前中阿沼神社参拝等ノコトアリ。午後一時ヨリ夜九時マデ津雲氏ノ講演，諸情勢ノ説明等ニ引続キ，質議応答的ニ研究ヲ重ネ…」

(6月11日)，「朝六時半ヨリ大林寺へ行キテ，七時ノ朝食ニ会シ，午前中山口内政部長ヲ司会者トシテ，国民総蹶起運動ノ事務打合ヲナス。又朝鮮連盟ノ実践部長重松氏ノ講演モアリテ，正午閉会シ，予ノ発声ニテ一同誓ヲ唱へ，聖壽萬歳ヲ三唱シテ散ズ」等々。

6月に入り，戦局は，決定的に悪化をたどっています。

6月15日，ついに，米軍がマリアナ諸島のサイパンに上陸しました。6月19，20日のマリアナ沖海戦で日米両機動部隊の決戦が行われ，日本側は空母3隻が撃沈され，航空機も395機失い，大惨敗しています。そのため，7月7日にサイパン守備隊3万人が玉砕しています。

そして，米軍機による空爆も始まりました。6月16日の未明，中国の成都基地から飛び立ったB29が，八幡製鉄所等北九州への空爆を行いました。日記にも「午前一時空襲警報アリ。蹶起配備シ，会社ノ工場モ稲岡主任等警戒ニ当ル。朝，解除トナル。警戒警報発令中ノ儘，夜ニ入レリ。報道ニヨリ今未明北九州ニ敵機襲来アリシヲ知ル」(6月16日)とあります。本格的な本土空襲の始まりです。

この時期，亀太郎は，地元の議員として，未通の八幡浜・卯之町間の鉄道開通促進活動に尽力しています。6月28日，上田宇和島市長らと共に，県知事に陳情に行っています。「午前九時，上田市長一行ト共ニ県庁へ行キ，知事応接室ニ於テ，上松ノ沿線有志十余名ト合シ，雪沢知事ニ面会ノ上，八幡浜・卯之町間開通促進ニ対スル県当局ノ協カヲ要望シ，知事モ善処ヲ約シテ，近ク四国協力会ニモ提案スルコト、ナレリ」。そして，7月10日開催の四国協力会議で鉄道促進の議案が提案されています。「午前七時ノやよい丸ニテ出発。八幡浜經由

松山へ行き、午後一時県庁参事会堂ニ於ケル四国協力会議提案審査ノ協議会ニ出席ス。知事以下各委員ト談ジ、八幡浜・卯之町間鉄道促進ノ件提出ニ決ス」。

また、亀太郎は、サイパン陥落後の戦局決定的不利の中、7月13日から17日にかけて、国民総決起運動に町村民を立ち上がらせるための講演に喜多郡内の各町村を回っています。

7月13日は大洲市へ行き、講演しています。「午前五時ノ宇和島自動車乗合バスニテ出発、八幡浜へ直行シ、八時四分ノ上り列車ニ接続シテ大洲町へ赴キ、…郡内ノ町村長一同ニ対シ、約一時間時局講演ヲ行フ。大洲町長石丸氏等ト昼食ヲ共ニシ、午後二時ヨリ公会堂ニ於テ町内会役員、婦人会幹部約二百人ノ聴衆ヲ会シテ、国民総決起運動ノ講演及ビ座談会ヲナス。約二時間余ニシテ、一同感激ノ裡ニ閉会ヲ告ゲ、油屋旅館ニ投宿ス」。

7月15日には、長浜町です。「長浜町役場へ行ク。助役其他ト昼食ヲ共ニシ、午後二時ヨリ家政女学校ニ於ケル総決起運動講演会ニ臨ム。在郷軍人、女学生徒、一般町民ヲ合セテ四、五百名ノ聴衆ニシテ、座談会共二時間半ヲ要シテ、五時閉会ス」。

7月16日には、喜多郡喜多灘村です。「喜多灘村へ赴ク。口井村長等ト昼食ノ後、午後二時ヨリ村役場二階広間ニ於テ総決起運動ノ講演ヲナス。村民二百名近く来会シ、感動ヲ与ヘタルガ如シ」。

7月17日には、同郡大和村です。「大和村役場ニ到ル。助役駅迄出迎ヘタリ。正午過松本村長等ト昼食ヲ共ニシ、午後一時半国民学校講堂ニ於テ講演ヲナス。来聴ノ村民男女二百人、皆良ク聴キタリ。座談会ニモ熱心ナル質議応答アリテ、五時閉会…之ニテ予担当ノ総決起運動講演ハ一応了リタリ」。

7月18日、亀太郎はサイパン玉砕（7月7日）の報道を聞いています。「午后市役所ノ翼賛会支部其他へ行ク。数日前命ジ置キタル向ヒ家平庭ニ設置ノ待避壕落成ス。数間ノ壕ニ掩蓋ニケ所ヲ設ケ、上ニ芝生ヲ植ヘタル式ナリ。夕、サイパン島吾軍玉砕ノ報道アリ」。

サイパン陥落下、ついに、7月18日、東条内閣が総辞職しました。後継内閣

は陸軍大将小磯国昭と海軍大将米内光政の連立内閣です（陸軍大臣は杉山元、海軍大臣は米内光政）。「朝、東條内閣総辞職ノ報道ヲ聴ク。…後継内閣ハ小磯、米内両大将ニ大命降下トノ報アリ」（7月20日）。

小磯内閣成立以降も、戦局は好転せず、さらに悪化を辿っています。米軍は7月21日にマリアナ諸島のグアムに、7月24日にはマリアナ諸島のテニヤンに上陸し、8月3日にテニヤンの日本守備隊8000人が、8月10日にはグアムの守備隊1万8000人が全滅し、マリアナ諸島は完全に米軍の支配下に入りました。

戦局悪化の中、亀太郎は、衆議院議員として、引き続き市民を鼓舞し続け、7月27日から8月2日にかけて、宇和島市の各地区で時局講演会を開いています。7月27日「午後七時ヨリ公会堂ニ於ケル市ノ第一区聯合常会ニ出席シ、祈願祭、協議アリテ後、会合ノ町内会役員百五十名ニ対シ、一時間二十分ニ亘リ時局講演ヲナス。十時半帰宅」、7月28日「夜八時ヨリ公会堂ニ於ケル第二区聯合常会ニ列席シ、市長、会長ノ談話アリテ後、昨日ト同ジク時局講演ヲナス。会衆二百五十名、十時二十分閉会、帰宅ス」、7月29日「夜、和霊神社参籠所ニ於ケル第三区聯合常会（和霊町伊吹町方面）ニ列席シ、時局講演ヲナスコト一時間四十分、十一時帰宅シタリ」、7月30日「朝、防空訓練アリ。…八時ヨリ亦和霊神社参籠所ヘ行キテ、第四区（朝日町方面）聯合常会ニ臨ミ、時局講演ヲナス。十一時帰宅」、8月1日「夜、和霊町二丁目喜久生ニ於ケル同町々内会ノ総集会ニ臨席シテ、時局講演ヲナシタリ」、8月2日「夜、伊吹町会館ニ於テ集会ノ区民全部ニ対シ、時局講演ヲナスコト二時間、十時帰宅シタリ」等々。

9月2日、小磯内閣発足後の最初の第85回臨時議会（9月7日開会、9月11日閉会）出席のため、上京の途につき、途中松山、神戸に寄り、5日に東京についています。

9月6日が、議会の召集日です。議員の防空訓練が初めてなされています。「九時過毛山君ト共ニ衆議院ニ登院ス。十時開会ヲ告ゲ、岡田議長以下各員参集ノ上、部属定マリテ帝国議会成立ス。予ノ議席ハ三八七番ナリ。散会后一同

地下室へ待避ノ防空訓練ヲ行ヒ、正午帰宿ス。午後興亜同盟ノ河村英雄君来訪。中央各界ノ近状ヲ聴キ、毛山君ヲモ加ヘテ共ニ暮ヲ囲ミタリ。尚予ハ五時ヨリ大東亜会館ニ於ケル議員懇話会ニモ出席シタルガ、新ニ入会ノ山崎達之輔、太田正孝諸氏ノ卓上談アリテ、有意義ノ会合ナリキ」。

9月7日、開院式があり、天皇の勅語³⁾に一同緊迫しています。その後の本会議では勅語への奉答文決議、小磯首相の施政演説⁴⁾、陸海相の戦況報告等を聞いています。「午前十時前登院、陛下ノ行幸ヲ奉迎シテ、貴族院ニ於ケル第八十五帝国議会開院式ニ参列ス。陛下親臨『卿等衆ニ先ンジテ憤激ヲ新ニシ』云々ノ勅語ヲ賜ヒ、一同時局ノ緊迫ヲ痛感シテ、忠誠挺身ヲ誓フ。式後衆議院ノ本会議ニ出席。奉答文ノ起草又其決議ヲ行ヒテ休憩ニ入り、其間ニ貴族院ヲ傍聴ス。衆議院ハ午后四時五十分開議ノ上、小磯総理大臣ノ施政演説、杉山陸軍、米内海軍両大臣ノ戦況報告ト、之ニ対スル感謝決議等アリテ、七時前散会、帰宿ス」。

9月8日、亀太郎は本会議に出席し、また、予算委員会(秘密会)を傍聴し、戦況報告を聞いています。また、この日に250億円の臨時軍事費が即決されています。「午前九時半登院、十時二十分ヨリ本会議開会セラレ出席ス。松村謙三、安藤正純両氏ノ代表質問アリテ、予算案ヲ委員会ニ廻シ休憩、午後二時予算委員会ニ入りテ秘密会ヲ傍聴ス。陸海軍省ノ各軍務局長ヨリ戦局ノ説明及ビ現下

3) この時の天皇の勅語は次の通り。「朕茲ニ帝国議会開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク 朕カ外征ノ師ハ勇戦奮闘随處ニ勁敵ヲ破リ大ニ威武ヲ宣揚セリ而シテ大東亜ノ建設ハ駸駸トシテ進ミ友邦トノ締盟モ亦益々固シ朕深ク之ヲ憚フ然レトモ敵ノ反抗愈々熾烈ニシテ戦局日に危急ヲ加フ皇国カ其ノ総力ヲ拵ケテ勝ヲ決スルノ機方ニ今日ニ在リ卿等宜シク衆ニ先ンシテ憤激ヲ新ニシ團結ヲ鞏クシ敵国ノ非望ヲ破碎シ以テ皇運ノ無窮ニ扶翼スヘシ」(第八十五回帝国議会貴族院議事速記録』昭和19年9月7日)。

4) 小磯首相は、施政演説で、天皇の勅語を奉戴し、あくまで戦争遂行を唱えている。すなわち「不肖曩ニ米内海軍大将ト共ニ凶ラズモ組閣ノ大命ヲ拝シ…驚愕感激ニ堪ヘマセヌ、真ニ非常重大ナル時局下、渾身ノ努力ヲ捧ゲテ大御心ニ副ヒ奉ランコトヲ期シテ居リマス、…私ハ諸君ト共ニ謹ミテ聖旨ヲ奉戴シ、蹇々匪窮ノ誠ヲ致シ決戦下重大ナル職務ノ遂行ヲ期シ、速カニ戦争目的ヲ達成シ、以テ宸襟ヲ安ンシ奉リタイト存ジテ居リマス、…私ハ今皇国ノ興廢ヲ決スベキ重大時局ノ関頭ニ立チ…一億同胞ト共ニ堅確ナル必勝ノ信念ヲ把持シテ大和一致、総力ヲ結集シ、近ク断乎米英撃滅ノ挙ニ出ントスル第一戦皇軍ノ壮図ニ策応シテ国務ノ運営ヲ飽クマデモ戦争目的ノ完遂ニ吻合セシメタイト存ジマス」と(第八十五回帝国議会衆議院議事速記録』昭和19年9月7日)。

ノ軍需生産情況ノ解説アリ。七時ヨリ本会議ヲ開キテ、本日予算委員会ヲ通過セル二百五十億円ノ臨時軍事費追加案ヲ即決可決ス」。あと、四国選出議員主催による翼賛政治会新総裁の小林躋造（海軍大将）歓迎会を開いています。

9月9日に、予算委員会の傍聴をし、また鉄道省を訪れ、念願の八幡浜・卯之町線の鉄道建設確定の情報を得ています。「午前十時衆議院ニ登院ス。予算委員会ノ質問ヲ傍聴シテ後、午後一時ヨリ鉄道総局へ行キテ長官堀木氏ニ会ヒ、又三浦施設局長ニ面会シテ、八幡浜・卯之町間線路敷設ニ就テ質ス所アリ。今回ハ建設確定ト認メテ可ナルガ如シ」。

9月10日にも、予算委員会の傍聴、本会議に出席しています。

9月11日、臨時議会の最終日です。前田米蔵運通大臣から、八幡浜・卯之町間の鉄道建設着工の情報を得ています。後、本会議に出席しています。「午前十一時登院。正午代議士会ノ後、院内大臣室へ行キテ運輸通信大臣前田米蔵氏ニ会フ。百三号線ノ鉄道（八幡浜・卯之町間）ハ工事着手トノ談アリ。午後一時本会議ニ出席、聖旨奉体決議案ヲ満場一致可決ス。更ニ院内ニテ長崎運通次官ニ会ヒ次デ鉄道総局へ行キテ自動車局第二監理課ノ臼杵利旭君、施設局企画課長井上禎二氏、小倉業務局長ニ夫々面会ノ上、鉄道建設工事ノ実地促進方ヲ要望ス。方針ハ決定セルモ事務的ニハ、尚支障ヲ生ジ易キ形勢ナレバ今後ノ努力ニ俟ツ所多シト思ハル。…議会ハ貴族院モ諸案通過シ、本日ヲ以テ議了トナル」。

9月12日、閉院式があり、また小磯総理主催の議員招待会に出席しています。その後、亀太郎等が主催して、鉄道建設促進に尽力を果たした武知勇記（衆議院議員）、中村純一（逓信省官吏）、山下三郎（山下汽船社長）を招き、招待会をしています。「午前十時半登院、十一時貴族院ニ於ケル閉院式ニ列ス。式後、議員一同宮中ニ参内シ、正午正殿ニ於テ拝謁ヲ賜フ。午後一時ヨリ永田町首相官邸ニ於ケル小磯総理ノ議員招待会ニ出席ス。午餐ノ饗アリ。二時過帰宿シ、五時毛山、野本両君ト共ニ芝御成門附近ノ千里亭へ行キ、予等ノ主催ニテ武知勇記、中村純一、山下三郎氏ヲ招待。先日来鉄道促進ニ就テ尽力ノ勞ヲ謝シ、主客懇談ヲ重ネテ八時過帰宿ス」。

9月14日、帰国の途につき、途中、京都、神戸に寄り、16日帰宇しています。

10月に入り、戦局はさらに悪化しています。10月10日～12日、米機動部隊は、沖縄・台湾を空襲しています。日記にも「兩三日来、沖縄台湾方面敵機来襲頻リトノ報道達ス」(10月14日)、「台湾東方海面戦果大ニ揚ル」(10月17日)とあります。大本営は「大戦果」と発表していますが(空母11隻、戦艦2隻「撃沈」)、事実は大した戦果はなく、巡洋艦2隻大破にすぎませんでした。

マリアナを攻略した米軍は、次にフィリピンを目指し、10月20日、レイテ島に上陸しました。また、10月24日のレイテ沖海戦で、日米の機動部隊の決戦が行われ(この時から神風特攻隊による攻撃が始まる)、日本海軍はまたまた壊滅的打撃を受けています(武蔵、瑞鶴など30隻を失う)。その結果、制空権を奪われ、レイテ島の日本軍は壊滅させられます。

そして、本土空爆が本格化しました。10月25日、北九州が爆撃を受けました。さらに、11月からはサイパン基地のB29による空爆が始まりました。11月1日にB29、1機が東京上空の初偵察を行い、11月24日昼、B29、80機が東京武蔵野町の中島飛行機武蔵野工場を爆撃しました。以降東京は年末にかけて連日の如く空襲を受けています⁵⁾

そのような戦局悪化の中で、亀太郎は衆議院議員として、引き続き国民を鼓舞し続けています。10月23日は宇和島の融通座において「一億憤激米英撃摧議会報告演説会時局演説会」を催しています。「五時ヨリ中村へ行キテ、二宮卓君、柴田芳久君ヲ会シ、共ニ演説会場タル融通座ニ入ル。一億憤激米英撃摧議会報告演説会ヲ正六時開会シ、会衆一同ト共ニ国民儀礼ヲ行ヒタル上、政談演説ニ移リ、柴田君『開会ノ挨拶』十五分ニ次デ、二宮君『吾等常ニ戦場ニアリ』ノ題下ニ四十分ノ演説ヲナス。予ハ『率先感激ヲ新ニス』ト題シテ議会報告及ビ時局講演ヲナシ、開院式ニ賜ハリタル勅語ニ基キテ一億国民ノ憤起ヲ促シテ、

5) 昭和19年11月24日の空爆以降、東京は11月27日、11月29日、12月3日、6日、10日、11日、12日、15日、20日、21日、24日、27日、28日、29日、30日、31日と空襲を受けている(『日本の空襲3 東京』より)。

一時間三十分熱弁ヲ続ク。聴衆満堂約千五百名ニシテ盛会ナリ」。

10月25日には、松山に赴き、翼賛会支部における四国地方懇談会に出席し、また夜は松山の新栄座に於ける一億憤激米英撃摧演説会に出席しています。「九時翼賛会支部へ行き、昨日来松ノ翼賛政治会総裁小林躋造海軍大将一行接待ノ係員ト打合ノ上、十時県庁貴賓室ニテ小林総裁及ビ翼政総務太田正孝、松田竹千代両代議士其他ノ一行ニ会フ。十時三十分翼賛会支部ニテ四国地方懇談会ヲ開キ、予、開会ノ挨拶ヲナシテ後、総裁ヲ中心トシテ、翼政今後ノ運用等ニ就キ互ニ意見ヲ交換シ、午後一時閉会ス。…五時北立花町花房へ行キテ総裁一行歓迎会ニ列シ、六時半新栄座ニ開会ノ一億憤激米英撃摧演説会ニ列ス。聴衆超満員ノ盛会裏ニ総裁ノ挨拶及ビ松田、太田両代議士ノ熱演アリ。十時閉会」。

11月30日には、松山大林寺での一億憤激米英撃摧運動の指導者打ち合わせ会に出席しています。

12月10日には、近永に行き、時局講演しています。「午後二時ヨリ近永農業会楼上ニ於ケル日婦主催ノ産業戦士家庭婦人慰安及ビ激励ノ会ニ列席ス、佐川君ト予ニテ各一時間余ノ時局講演ヲナ（ス）」。

12月19日に岩松町です。「午前宇和支庁へ行き、翼賛会愛媛支部ノ泉田部長等ト会ヒテ、共ニ同庁ノ自動車ニテ岩松町へ行ク。正午同町国民学校ニ着シ、昼食後直チニ講堂ニ於テ米英撃摧国民運動挺身員練成会ニ臨席、津島郷町村ヨリ参集ノ挺身員百数十名ニ対シ、予ト泉田君各一時間半ノ時局講演ヲナス、四時閉会。大畑旅館ニ少憩ノ上自動車ニ乗リテ、六時半宇和島ニ帰着シタリ」。

12月20日には三間町です。「午前七時四十一分北宇和島ヨリ乗車、宮野下駅ニ下車シ、泉田君等ト共ニ三間村八洲殿道場ニ赴キ、昨日同様米英撃摧運動挺身員練成会ヲ開催ス。九時三十分開会。村長ノ挨拶ニ次デ、予、登壇。十一時四十分迄時局講演ヲナシ、十三時五十分ノ列車ニテ出発。宇和島ニ帰レリ」。

12月21日、第86回帝国議会(12月26日開会、20年3月25日閉会)に出席のため、上京の途につき、列車満員で立ち席のまま、23日東京についています。東京は毎夜空襲に襲われており、その夜、亀太郎は退避壕に避難しています。

12月23日の日記に「午後四時漸ク東京ニ着シ、呉服橋龍名館ニ投宿ス。毎夜空襲アリトノコトニテ、靴ヲ室中ニ持チテ、闇中ノ待避ニ備ヘ、洋服ヲ枕頭ニ置キタル儘、八時就床シタルガ、九時早クモ警戒警報アリ。結束シテ待避壕ニ入ル」とあります。

12月24日が議会の召集日です。ゲートル、鉄兜姿で登院しています。夜は華宵宅に一泊しています。「一旦仮ニ床中ニ入りシガ午前二時又空襲警報アリ。五時マデ続キタリ。九時ヨリ巻ゲートル姿ニ鉄兜ヲ背負ヒテ、衆議院ニ登院ス。予等ノ控室ハ二階第四控室ニ変更セラレ、議席ハ参四九番トナレリ。十時十六分開会、第八十六帝国議会成立ス。乃チ部属ヲ定メ、予ハ第九部ニ属ス。散会後院内ニテ理髪、昼食ノ上龍名館ニ帰ル。午後毛山君、河村君来訪。六時ヨリ鎌倉ヘ赴キ、華宵ヲ訪ヒテ同家ニ一泊ス」。

12月25日は、三越前や神田方面の空襲跡を視察したり、伊達家の故武藤忠義氏の弔問等をしています。

12月26日は、開院式があり、また本会議に出席しています。「午前九時モーニングニ戦闘帽ヲ戴キテ登院シ、十時貴族院ニ於ケル開院式ニ参列ス。陛下親臨、勅語ヲ賜ヒ、気色麗ハシキヲ拝ス。引続キ衆議院ノ本会議ヲ開キテ、奉答文ノ起草手續其決議、常任委員ノ選挙ヲ行ヒ、尚休憩中ニ予ハ庶務課ニ於テ、豫テ通知ニ接シ居タル支那事变従軍記章ヲ拝受ス。正午散会、帰宿」。

12月27日の正午、8～10機の編隊をなしたB 29、約50機が、東京上空に進入し、空爆を行いました。亀太郎はそれに遭遇し、空中戦の状況を目撃しています。「午後一時ノ衆議院開議マデニ芝公園ノ中村純一君宅ヲ訪ハントシテ、正午大手町停留所ニアル時、警戒警報発令アリ。電車日比谷交叉点ニ到ル前、早クモ空襲警報トナリタルガ、尚進行ヲ続ケ、田村町御成門ノ各停留所ヲ通過スル間、電車ト同一方向ニ航空スル銀色ノ飛行機六機ノ一編隊ヲ見ル。増上寺山門前ニ下車シタル際、始メテ其敵機B 29号ナルヲ知ル。急ギ純一方ヘ行キテ稲子夫人、女中ト共ニ同家庭園ノ待避壕ニ入りタルガ、程ナク第二編隊八機ノ侵入アリ。上空ヲ悠々飛翔通過ス。ラヂオノ情報東部軍ノ伝フル所ニヨリ、静岡

県方向ヨリ帝都上空ニ侵入ノ敵機数編隊ニ及ブヲ知り、其通過毎ニ壕中ニ待避シ、頭上ヲ過グレバ出デ、之ヲ視ル。第三、第四、第五ノ編隊各七、八機ニテ東北ニ通過シ、第六、第七ノ二編隊各八機ハ殆ド同時ニ侵入、東南海岸方向ニ逃去シタルガ、吾方高射砲ノ激撃及ビ味方機ノ体当リニヨリ傷キテ白煙ヲ吐ケルモノ数機アリ。内一機隊列ニ後レ見ル中ニ錐揉状態トナリテ墜落。更ニ空中ニ二回反転ノ後、大焰ヲ吐キテ急転直下セル光景ハ、凄壯ヲ極メ一同覚ヘズ拍手ヲ続クルコト二時間、敵機五十余機ノ通過ヲ見テ、午後二時過警戒警報ニ復セリ。依テ直チニ電車ニテ登院シタルガ、院内モ空襲中待避ニテ、二時五十分ヨリ本会議ヲ開キ出席ス。陸軍大臣ヨリ本日ノ空中戦ニ敵機十二機ヲ撃墜シタル旨報告アリ。陸海両大臣ノ戦況報告、院ノ感謝決議、黙禱等アリ。院ノ年内議事ハ本日ヲ以テ了リ、四時半退出。再ビ中村方ヘ寄リテ帰宿ス。乃チ手荷物ヲ整ヘテ、六時半龍名館ヲ辞シ、八時東京駅発大阪行急行列車ニ乗りテ帰国ノ途ニ就ク」。

VI. 昭和 20 年

昭和20年(1945)は、アジア・太平洋戦争5年目、敗戦の年です。本節では、8月15日までの亀太郎の政治活動について見ます。本年の1月1日の日記は「愈々決戦ノ年ナリ」で始まり、緊張感が伺われます。

1月1日は、亀太郎は、例年と同様に、市役所における新年の拝賀式に参列し、参列者総代として、御真影を拝し、その後は神社に参り、年始客を迎えています。「朝、家内一同雑煮ヲ祝ヒ、九時市役所ニ於ケル新年拝賀式ニ勲章ヲ帯ビテ参列、市長議長ト共ニ、予、参列者総代トシテ御真影ヲ辞ス。式後親戚ノ家々ノミヲ廻礼シ又法円寺ニ墓参。宇和津彦、和霊両神社ヘ参詣シテ、午後二時帰宅ス。家ニハ年始ノ客アリ。心バカリノ酒肴ヲ薦ム。夜、古城貞氏方ノ小碁会ニ行キタリ」。2日も同様です。

1月3日から家業の木工会社の仕事をはじめていますが、宇和島ではこの日早くも本年最初の空襲警報に見舞われています。「午後二時空襲警報アリ、三時

解ク」。1月9日にも、2度目の空襲警報がありました。

そのような中、1月9日の夜、亀太郎は融通座にて米英撃摧議会報告時局講演会を開催し、市民を鼓舞しています。「午後二時空襲警報アリ、一時間位ニテ解除トナレリ。五時半ヨリ融通座へ行キテ、予定通り予主催、翼賛会市部後援ノ米英撃摧議会報告時局講演会ヲ開催ス。六時十五分開会。土居翼賛会主事司会ノ下ニ、会衆一同国民儀礼ヲ行ヒ、上田宇和島市長ヨリ趣旨ノ挨拶アリ。次デ六時三十分ヨリ七時十五分迄、二宮卓君『特攻精神ノ昂揚』ナル題下ニ演述シ、予ハ引続キ『武力戦ト経済戦』ト題シテ熱弁ヲ振フコト二時間余、大ニ欧亜戦局ノ経済戦事情ト内地通貨価値維持ノ必要ヲ力説シテ、聴衆ニ感動ヲ与ヘタリ。此夜入場者満堂、最終マデ静肅ニ傾聴シ、頗ル意義深キ会合ナリキ。九時半閉会シ中村へ寄りテ、十時帰宅ス」。

1月19日、亀太郎は衆議院議員として、小磯内閣下、再開される第86帝国議会⁶⁾出席のため、上京の途につき、21日の朝、8時20分に東京についています。なお、途中、山陽線の久保・明石間は、1月19日の米軍の爆撃により鉄路が破壊され、不通故、将校・公務員輸送のトラックに搭乗しています。

東京は元旦以来、ほぼ毎日のように、B 29による空爆を受けています。1月だけでも、1日、5日、9日、10日、11日、16日、17日、19日、22日、23日、26日、27日、28日、29日の14回ありました⁷⁾

この空爆の中、亀太郎は議会に出席しています。1月21日は、本会議に出席し、小磯首相、重光外相、石渡蔵相の施政演説⁸⁾を聞いています。「十時ヨリ衆議院ニ登院シ、午後一時休会明ケノ本会議ニ出席ス。小磯首相、重光外相、石渡蔵相ノ施政演説、金光庸夫外二氏ノ代表的質問アリテ、五時半散会」。

1月22日は、本会議、予算委員会に出席しています。「午前九時過登院。十

6) 第86議会には、昭和20年度予算案のほか、軍需金融特別措置法、所得税等の増税案等が出されている。

7) 『日本の空襲3 東京』6頁。

8) 小磯首相は、あくまで聖旨奉体し、あらゆる困難を克服し、戦争完遂を唱えている(『第八十六回衆議院議事速記録』昭和20年1月21日)。

時ヨリ本会議アリテ正午散会シ、午後一時ヨリ予算委員会ヲ傍聴ス。安藤正純氏其他ノ質問二次デ秘密会ヲ開キ、重光外相ヨリ対蘇連關係ニ就キ説明アリ。五時退出ノ後、丸之内大東亜会館ニ於ケル議員懇話会ノ晚餐会ニ出席ス。七時過帰宿。夜、二回警報アリ」。

1月23日は、軍需金融の委員会に出席し、亀太郎の提案で委員長・理事の選挙を省略しています。また予算委員会を傍聴し、夜は鎌倉の華宵宅を訪れ、一泊しています。「午前九時半登院。十時軍需金融等特別措置法案委員会ニ出席ス。予ノ提言ニテ、委員長、理事ノ選挙ヲ省略シ、管理者指名ニヨリ決定ス。次デ予算委員会ヲ傍聴シ、午後毛山君ト共ニ翼政本部及ビ三越ヘ行キ、五時ヨリ、予ハ鎌倉華宵方ヲ訪ヒテ一泊ス」。

1月24日は、予算委員会、鉄道委員会（「地方鉄道及ビ軌道ニ於ケル納付金等ニ関スル法律案」）を傍聴するなどしています。

1月25、26日は、軍需金融の委員会に出席しています。

1月27日は、午前は予算委員会（秘密会）を傍聴し、午後は代議士会に参加していました。その時、午後2時、B 29が約70機来襲し、有楽町や銀座、新橋等々に爆弾、焼夷弾を落とし、銀座は廃墟と化しました。この時、議員達は一時地下室に避難し、その後、3時半よりの本会議で臨時軍事費850億円を可決しています。「午前九時ヨリ登院。十時予算委員会ノ秘密会ニ於テ大蔵大臣、陸軍大臣及ビ陸軍々務局長ヨリ財政及ビ戦局ニ関スル説明ヲ聴ク。正午食糧問題ノ有志代議士会、午後一時翼政会ノ代議士会ニ出席。二時敵機来襲ニ就キ、一同院内地下室ニ待避ス。B 29号五編隊約七十機、静岡地区ヨリ都中ニ侵入シ、爆弾焼夷弾ヲ落下シテ、数ヶ所ニ火災起リ、新橋、数寄屋橋方面黒焰昇ルヲ観ル。三時警報解除トナリ、三時半ヨリ本会議開会。太田委員長ノ報告アリテ後、臨時軍事費八百五十億円ノ原案ヲ満場一致可決確定ス。四時四十六分散会。五時中国四国議員ノ会ニ出席シ、六時赤坂武田ニ招カレ行キテ、夕食ノ饗ヲ受ク。九時辞シ、電車通ゼザルヲ以テ、地下鉄ニテ新橋ヘ出デ、更ニ省線ニ乗替ヘテ東京駅ニ下車、帰宿シタルガ、有楽橋付近ハ余燼尚燃ヘ居タリ。十一時復警報

アリキ」。

1月28日は、軍事金融の委員会に出席しています。

1月29日は、亀太郎関係の委員会がないため、友人宅を訪問し、ゆっくりしています。

1月30日は、軍事金融の委員会、代議士会、本会議に出席し、この日、昭和20年度予算270億円が可決されています。「午前十一時登院。午後二時軍需金融ノ委員会、次デ三十日会ノ議員会ニ出席ス。本日ハ翼政代議士会ヲ開クコトニ回、本会議ヲ開クコトニ回、国内体制強化問題ヲ繞リテ内部ニ議論旺ナリシガ、結局幹部ノ意見ニ纏リテ、夜ニ入り本会議ニ於テ、昭和二十年度一般会計及ビ特別会計予算合セテ二百七十億円ヲ満場一致可決ス。尚六法律案ヲモ可決シテ八時五分散会シ、九時旅館ニ帰リタリ」。

予算が通過したため、1月31日以降はやや暇です。31日は、水産議員同盟の総会に出席し、夕方は亀太郎ら南予選出議員主催による鉄道関係当局の招待会をしています。

2月1日は、毛山森太郎、岡本馬太郎代議士と共に大石大代議士を訪ね、夜は鎌倉の華宵宅へ行っています。

2月2日は、日比谷公園のB 29の展覧会をみたり、代議士会、本会議に出席したりしています。

2月3日は、三越で買い物等しています。

2月4日は日曜日で、夜、岡田議長官舎における議員晚餐会に出席しています。

2月5日は、代議士会、本会議に出席し、重要議案は議了しましたので、一旦帰国の途についています。2月5日の夜、東京を出て、途中、井原、松山に寄り、2月8日に、宇和島に帰っています。しかし、帰国後、亀太郎は疲労と感冒のため、発熱し、13日まで臥せっています。

さて、昭和20年の戦局は決定的に不利です。1～2月をとってみましても、1月9日に米軍はルソン島に上陸し、2月3日にマニラ市内に突入し、市街戦

となり、2月末までに日本軍は全滅しました。また、2月19日に米軍は硫黄島に上陸し、激しい戦闘がなされています（3月17日には守備隊2万3000人が全滅）。

また、本土空爆が強化され、2月16日から17日にかけて、米機動部隊は艦載機1200機をもって関東各地を攻撃し、大被害を与えています。その後も、2月19日、24日に東京の市街地が無差別空爆を受けています。

そのような中、病気から回復した亀太郎は、衆議院議員としての町村民鼓舞の活動に従事しています。

2月15日には、三間村に行き、時局講演会を開催しています。「十一時二十一分ノ汽車ニテ北宇和島ヨリ出発、三間村宮野下へ赴キ、同地恵美須座ニ於ケル米英撃摧議会報告時局講演会ニ臨ム。佐竹庄平君ノ司会ニテ午後一時半開会。聴衆一同国民儀礼ヲ行ヒ、同君二時半マデ談ジ、次デ予登壇、三時間ニ亘リテ講演ヲナシ、時局ニ対スル国民ノ覚悟ヲ強調ス。入場者満員静肅ニ聴キテ、五時四十分万歳三唱ノ上、閉会ヲ告グ。五時五十分ノ列車ニ投ジテ、六時過宇和島ニ帰着シタリ」。

2月19日には三島村です。「午前七時四十一分北宇和島ヨリ出発。三間ニテ佐竹君ト合シ、共ニ出目駅ニ下車シ、省営自動車ニ乗替ヘテ三島村小松ニ至リ、十時半村役場ニ着ク。製糸工場及ビ小川彦太郎君ヲ訪ヒテ後、午後一時ヨリ同地農業会楼上ニ於テ、村当局司会ノ下ニ時局講演ヲ開催ス。聴衆八百名、盛会ニシテ五時了リ、省営自動車ニテ出目へ出デ、汽車ヲ乗継ギテ九時帰着セリ」。

2月24日には、松丸町です。「十一時二十一分ノ汽車ニテ出発。松丸町へ赴キ、先着ノ佐竹君ト会シテ、杉山旅館ニテ昼食ノ上、午後一時ヨリ同地松栄座ニ於テ時局講演会ヲ開催、出演ス。佐竹君一時間、予二時間半ノ講演ヲナシ、聴衆五百名。五時八分ノ列車ニテ帰途ニ就ク」。

3月1日には、近永町です。「朝、警報アリテ、敵機市ノ上空ヲ通過シタル由ナリ。午前七時四十一分ノ汽車ニテ西山君ト共ニ出発。近永町へ赴キ…近永役場ヲ訪ヒテ後、午後一時旭座ニ開催ノ時局講演会ニ臨ム。先着ノ佐竹君ニ次デ

予登壇。二時間余熱弁ヲ振ヒテ五時閉会シタルガ、聴衆満堂ナリキ。五時二十一分ノ列車ニテ出発六時半家ニ帰レリ」。

3月2日には、泉村です。「午前七時四十一分ノ汽車ニテ出発。出目へ赴キ、佐竹君ト会シテ共ニ省営自動車ニヨリ泉村小倉へ行ク、十時着。山崎量美、山崎定馬両君ノ出迎ヲ受ケ、量美君宅ニテ休憩ス。午后一時同地八千代座ニ於テ時局講演会ヲ開キ、予、三時間ニ亙リテ、戦争ト経済ヲ論ジ、国民日常生活ノ自制ヲ促ス。聴衆多カリキ。五時過了リ、佐竹村長及ビ収入役等ト共ニ、附近旅館ニ入りテ夕食ニ招カレ、座談会ヲ催ス。予等ハ山崎量美君方ニ一泊シタリ」。

3月4日には、城辺町、東外海村です。「朝六時宅ヲ出デ、宇和島自動車会社へ行キ、二宮卓君ニ会シテ共ニ南宇和郡へ赴ク。七時ノ第一便自動車ニテ出発シタレドモ、途中故障ノ為メ柏ニ下車シテ、九時発第二便ノ来ルヲ待ち、正午過漸ク城辺ニ到着、松屋旅館ニ入ル。西県会議員、其他町当局ト会シ、午後一時半ヨリ予定ノ同町南座ニ於テ時局講演会ヲ開ク。翼賛会支部主任司会ノ下ニ国民儀礼ヲ行ヒ、二宮君先ヅ講演シ、次デ、予、三時間ニ亙リテ時局ヲ論ジ、五時過了ル。入場者満員ナリキ。後、東外海村久良部落ノ懇請ニヨリ同地へモ行クコト、シ、西君ト共ニ馬車ニテ出張、久良ノ寺院ニテ講演ス。聴衆数百名ナリ。十時散会ノ後、郵便局長松平氏ノ宅ニテ夕食ノ招待ヲ受ケ、再ビ客馬車ニ乗りテ、十一時半城辺町ニ帰着シタリ」。

3月5日には、御荘町です。「午前二宮君ト共ニ平城へ行キ、御荘警察署、御荘町役場ヲ訪ヒ、…午後一時同町御荘座ニ於テ講演会ヲ開キ、山泉町長ノ挨拶アリ。昨日同様二宮君ニ次デ、予、講演三時間、満堂聴衆ニ共鳴ヲ得タリ。五時閉会ノ上、再ビ中尾ニテ少憩シ、一旦城辺へ帰りテ、更ニ深浦へ赴キ、同地某亭ニ於テ西一君ノ招宴ニ会ヒ、懇談ス。警報アリシモ、解除ノ後、辞シテ二宮君ト共ニ松屋へ帰レリ」。

3月に米軍による空襲がますます激しくなりました。3月10日午前0時、B29, 130機が東京に進入し、超低空から焼夷弾の絨毯爆撃を行いました(東京大空襲)。この爆撃で江東区は一夜にして廃墟と化し、23万戸の家屋が焼失し、死

傷者12万人とされています⁹⁾

その後、米軍は、東京大空襲に続いて、3月12日名古屋、13～14日大阪、17日神戸、19日に再度名古屋と立て続けに大都市を焼夷弾攻撃しています。日記にも「十日東京、十三日大阪ニ爆撃ニヨル大火災アリシ由ナルガ、今夜ハ神戸大火ト想ハル」(3月17日)とあります。

さらに、3月18日から19日にかけて、米軍は九州各地を空爆しています。宇和島はその通り道です。そして、18日に松山市が本格的な空襲を受けています¹⁰⁾ それに関連した記事があります。「午前七時過ヨリ空襲警報入り、配置ニ就ク。敵機土佐沖ヨリ侵入ノ報アリ。…午後一時又空襲警報アリ、敵グラマン艦載機上空通過、北方ニ爆弾投下ノ音ニ回聞ユ。夕方マデニ三回空襲警報アリテ、薄暮解除トナル。八幡浜ニテ空中戦アリ、敵一機佐島ニ撃墜ノ由ナリ」(3月18日)、「午前七時ヨリ空襲警報発令、配置ニ就ク。松山上空百機、其他各地数十機旋回中トノ情報アリ。引続き発令解除ヲ繰返シタルガ、午後モ大体空襲警報下ニアリ。警察署、中村等ヘ行ク。正午頃敵機十二機鬼ヶ城方面ヲ指シテ通過スル等ノコトアリ。夜、解除トナル」(3月19日)。

3月21日の朝、議会再開のため、上京の途につき、22日は鎌倉の華宵宅に一泊し、23日東京についています。

3月23日に、東京大空襲後の廃墟の東京を見えています。常宿にしていた龍名館も焼失です。そして、登院し、予算委員会の傍聴、本会議に出席しています。

「午前八時鎌倉ヲ出デ、東京ヘ行ク。十時着京、呉服橋龍名館ヲ訪フニ、去ル三月十日ノ爆撃ニテ、附近一帯焼失シ、灰燼ニ帰シ居レリ。少時徘徊、去リ難カリシモ、十一時衆議院ニ登院シ、予算委員会ニテ外務大臣ノ秘密会説明ヲ傍

9) なお、3月11日に1日だけですが、本会議が開催されています。1日だけのため亀太郎は上京していません。「朝、新聞ヲ見テ十一日議会開議ノ事ヲ知り…」(3月8日)、「十一日ノ議会ハ一日ダケナルヲ以テ上京セザルコト、ス」(3月9日)。もし、上京していたならば、東京大空襲に巻き込まれていた可能性があります。命拾いです。

10) 九州海上から飛来した米軍艦載機33機が松山市を空爆。被害状況は不明(『愛媛県史 近代下』928～930頁、『松山市史 第四巻 現代』13頁)。

聴ス。午后代議士会アリテ、三時ヨリ本会議ヲ開キ、出席ス。追加予算案ヲ可決シ、六時散会ノ後、赤坂武田へ行キテ、夕食ニ招カレタリ」。

3月24日は、本会議がないため、廃墟の東京を見て回りました。「午前中ニ登院。本日ハ本会議ナシ。午後一時過ヨリ出デ、市中火災ノ跡ヲ視察ス。銀座ハ大体残り居リ、白木屋罹災、三越無事、電車浅草橋止リナレバ、徒歩附近ノ焼跡ヲ見テ、両国橋ヲ東へ渡リ、本所深川一面ニ焦土ト化セルヲ踏査シ、川ニ添フテ吾妻橋ニ出ヅ。駒形ノ浜屋君本宅モ焼失シ居タリ。浅草、中見世、観音、食堂街モ無クナリ、田原町ニ至リテ始メテ電車アリ、上野駅前迄来ル。不忍池ヨリ更ニ徒歩ニテ、谷中清水町へ行キ、宇都宮信子ノ安否ヲ尋ヌ。疎開準備中ナリ。帰途夕方芝区汐留ノ祖上君方ヲ訪ヒタルニ建物強制疎開ニテ、近日三重県へ引揚グル由ナリ。夜ニ入りテ鎌倉華宵方ニ帰レリ」。

3月25日は、午前、甥の中村純一宅を訪れ、午後は代議士会、本会議に出席しています。議会の最終日で、議案全て議了しています。「午前九時鎌倉ヲ出デ、東京へ行キ、芝公園ノ中村純一君方ヲ訪フ。純一君在宅、稲子夫人等家族ハ近日長野県へ疎開ノ由ナリ。正午登院シ、午後一時代議士会ニ出席ス。対政府問題等議論多カリシガ、三時過ヨリ本会議ヲ開キ、決算、建議請願其他ノ案全部ヲ議了シテ、第八十六議会終ル。岡田議長ノ挨拶アリテ、四時半閉会シ、七時過鎌倉ニ帰レリ」。

3月26日が、閉院式です。しかし、本年は拝謁・賜饌はありませんでした。それほど戦局が悪化していることが伺われます。「午前八時鎌倉ヲ出デ、東京へ行キ登院。十一時貴族院ニ於ケル閉院式ニ列ス。本年ハ宮中拝謁及ビ賜饌ナク、御菓ヲ賜ハリタリ。午後二時東横沿線工業都市ノ東京機械製作所ニ芝義太郎氏ヲ訪ヒテ談ジ、横浜經由四時鎌倉ニ帰ル。華宵ト夕食ヲ共ニシテ後、夜、辞シテ再ビ東京ニ入り、赤坂武田ニ一泊ス」。

3月27日、帰国の途につきます。東京は罹災者、疎開者多く、混雑しています。「午前八時東京駅へ出ヅ。列車数減ジタルト罹災者、疎開者多キ為メ、非常ニ旅客輻湊シ雑踏ヲ極ム。土佐中村へ帰ル武田ト共ニ、十時四十分ノ門司行普

通列車ニ乗りテ東京ヲ出発ス。車中座席ナク超満員ナリ」。

3月28日は松山の娘倭文方に一泊しましたが、翌29日の朝、米軍機が松山上空に來襲し、¹¹⁾防空壕に避難しています。後、帰宇しています。「午前四時ヨリ警報発セラレ、六時空襲警報トナリテ、敵艦上機松山上空ニ侵入ニ就キ、重雄方家族ト共ニ防空壕内ニ待避ス。空中戦行ハルトノ情報アリ。七時警戒警報ニ復シタレバ、辞シテ松山駅へ出デ、七時八分ノ列車ノ遅レテ八時十二分ニ発車スルニ乗ル。八幡浜一卯之町間ノバス途中故障ニテ又遅レ、午後二時五十五分卯之町発ニ連絡シテ四時無事宇和島ニ帰レリ」。

3月に大都市が空襲にあい、次は地方都市に移ります。宇和島も空襲の恐れが出てきたため、3月31日、亀太郎は荷物の疎開の準備をしています。「午前衣類疎開ノ荷物ヲ荷造リセシム。…空襲警報アリテB 29 三十機市上通過トノ情報ナリ」。

さて、戦局は決定的に不利です。フィリピンを制圧した米軍（2月3日マニラ市内突入）は、硫黄島も占領し（3月17日、守備隊2万3000人戦死）、次に沖縄を目指し、4月1日、ついに、沖縄に上陸しました。以降激しい沖縄戦が始まります。

4月5日、小磯内閣は沖縄への米軍上陸の責任を取り、総辞職し、6日後継首相に海軍大将の鈴木貫太郎が就任しました（陸軍大臣は阿南惟幾、海軍大臣は米内光政が再任）。

そんな中でも、亀太郎は議員として時局講演会を開き、相変わらず、村民を鼓舞しています。

4月17日は北宇和郡三浦村大内で時局講演しています。「午後一時ヨリ時局講演ノ為メ、三浦村へ出張ス。宇和支庁ヨリ金平総務課長ト翼賛会ノ書記随行。橋本三浦村長ノ出迎ニヨリ、二時内港出船ノ三浦丸ニ乗りテ、四時大内ニ上陸シ、海岸ノ一旅館ニ入ル。五時四十分ヨリ同地公会堂ニ部落民多数ヲ集メテ講

11) 3月28日から29日にかけて、約500機の米軍機が四国・九州地方を空爆。その一環である（『愛媛県史 近代下』928～930頁）。

演ヲナシ、八時閉会ス。後、村長及ビ村会議員、駐在巡查、郵便局長等十名許リノ一座ニテ慰労ノ小宴アリ。十時了リテ一泊ス。本日モ警報アリタリ」。

4月18日は三浦村豊浦です。「七時ヨリ小舟ニ送ラレテ、対岸小崎側ニ渡リ、小丘ヲ越ヘテ字豊浦ノ学校ニ着ク。朝来警戒警報、次デ空襲警報アリシモ、解除ヲ待テ、九時五十分ヨリ講演会ヲ講堂ニ開催ス。聴衆数百名。正午了リテ又警報アリ、爆音聞ユ。午後一時過モーター船ニテ送ラレ、宇和島へ帰ルコト、ナリ三浦村ヲ辞ス」。

4月25日には蔭沢村です。妻の実家があるところです。「午后蔭沢村へ時局講演ニ出張ノ為メ、新内港漁市場附近ヨリ出ヅル発動機付漁船へ赴ク。宇和支庁ヨリ菊池君、翼賛会ノ宮本君随行、蔭沢村長浜崎君モ来リ、共ニ乗船ノ上、一時出港シタルガ、海上ニテ機関故障ノ為メ予定ノ時間遅レ、赤崎鼻ト矢ヶ浜ノ中間蔭沢村字細木ノ海岸ニ船ヲ寄セテ上陸。小丘ヲ越ヘテ、字高助へ出デ、四時横浦着。村吏員ノ案内ニヨリ、村ノ国民学校ニ入ル。聴衆数百名揃ヒ居タレバ、四時半ヨリ講演ヲ始メ、七時終了。陛下ノ万歳ヲ三唱シテ盛会裏ニ散会ス。後、細川旅館ニテ村主催ノ慰労晚餐ニ招待セラレ、随員ハ同家ニ一泊、予ハ清家三九男君方ニ宿ス。母等一家接待ニカメラレ、又村医山崎淑子方ヲ訪ヒ、田村学校長ノ訪問ヲ受ケナドシテ、十二時就寝シタリ。午後警報アリシモ、程ナク解除トナル」。

4月は連日空襲警報が続いていましたが、4月26日に今治市がB 29、4機によって本格的空襲を受けました。死者90名、重軽傷者300余名の大きな被害を出しました。日記にその関連記事があります。「今日ハ午前中ニ空襲警報アリ。敵機市ノ上空ヲ飛ビ、昨日ハ深浦及ビ今治ニ投弾シタル由ナリ」(4月27日)。

5月も連日空襲警報が続き、5月4日に松山市北吉田にある松山海軍航空隊がB 29、17機によって空襲を受け、死者・行方不明79名、重軽傷者169名という大きな被害を受けました。日記にもそれに関連あると思われる記事があります。「未明警報アリ。朝、空襲警報トナリ、敵機編隊上空通過投弾音ヲ聴ク」(5月4日)、「朝来空襲警報発セラレ、正午頃マデニ敵機数編隊数回ニ亙リ、

四国各地ニ来襲シ、投弾音聴ユ」(5月5日)。さらにまた、5月8日に、今治が再度空襲を受けました(死者29名、重軽傷者4名)¹²⁾

5月8日、ドイツが全面降伏しました。後は日本だけです。この日、亀太郎は松山に行き、大日本政治会¹³⁾愛媛支部結成の準備会に参加しています。「独逸軍全面的降伏ス。朝、空襲警報アリシモ、七時五十一分ノ列車ニテ北宇和島ヲ出発シ、松山へ赴ク。午後一時半着松。三番町勝山荘ニ於ケル大日本政治会愛媛支部結成準備委員会ニ出席ス。東京ヨリ武知、米田両代議士帰県シ、在県代議士ト協議シタル結果、不取敢貴族院議員佐々木長治氏ヲ準備委員長トシテ組織ニ着手スルコト、シ、一同夕食ヲ共ニシテ五時半散会ス」。

5月10日、亀太郎は松山からの帰宇の途中で、何度も米軍機が頭上を通過し、その度に避難しています。只、空襲には遭遇していません。しかし、この日の朝、9時頃宇和島が遂にB 29による空襲を受けました。初空襲でした。「朝、帰宇ノ予定ニテ、用意シタルニ、六時空襲警報発セラレ、市内電車止リシ為メ、七時ノ列車ニ間ニ合ハズ。鞆ヲ背負ヒテ、徒歩松山駅へ行ク。東堀端マデ行キタルトキ、七時三十分頃待避信号アリテ、通行人ト共ニ赤十字病院構内ノ防空壕ニ待避シタルガ、此間ニ松山市上空ニ西南ヨリ侵入シタル敵B 29号十機ノ編隊ト五機、三機ノ編隊相次ゲ頭上ヲ東北ニ通過ス。高射砲発セラレ、西方吉田浜方面ニ黒煙上ルヲ見テ壕ヲ出デタルガ、南堀端高野山出張所前ニテ再ビ待避シ、漸ク松山駅へ出デ、折柄延着セル八時四十分ノ下り列車ニ投ジテ出発ス。然ルニ十時喜多灘駅近クニ進ミタル頃、敵機ノ来襲ニ遇ヒ、洋上青島附近ニ碇泊セル吾軍艦数隻ヨリハ高射砲ヲ発射シ、汽車ハ急停車シテ乗客ニ待避ヲ命ゼラル。予等一同急ギ下車シテ一部ハ海岸ニ、予ハ他ノ乗客ト共ニ山間ニ待避シ、鉄道線路ヨリ一町余ヲ距テタル谿間ノ小溝ニ伏セタルガ、敵機B 29頭上ヲ八機又十機通過シ、別ニ洋上ヲ十七、八機進行、次デ九機ト三機左右ヨリ頭上上空

12) 同上。

13) 翼賛政治会のあとを受けた政治結社。3月30日に結成されていた(総裁は南次郎陸軍大将)。

ヲ通過ス。孰レモ九州地方爆撃ノ帰途、四国ニ侵入、太平洋ニ向フモノ、如シ。三十分余ニシテ汽車発シタルニ、長浜附近ニテ又十一機列車上ヲ横切り、駅停車中九機来リ下車。待避中十一機通過シ、皆東南へ去ル。十時五十分発車白瀧駅ニテ更ニ九機南進スルニ遭遇ス。五郎駅ニテ十一時二十一分空襲警報解除トナリ、十二時八幡浜駅着。バスニテ卯之町へ向ヒタルガ、一時過青空ニ長ク飛行雲ヲ曳ケル敵一機ノ南方へ脱去中ナルヲ車窓ニ見ル。午後一時半卯之町駅ニ着シタルトキ、本日宇和島朝日町方面ヲ爆撃セラレタリト聴ク。宇和島行ノ直通乗合バスニ乗替ヘテ三時二十分無事家ニ帰レリ。直チニ会社ニ出勤シ又朝日町爆撃ノ模様ヲ尋ヌルニ、今朝九時頃多数機通過ノ後、単独一機急ニ高度ヲ下ゲテ投弾シ、破壊家屋多数、死者五、六十名ヲ出シ、一家全滅ノ所モアリトノコトナリ。之ヲ以テ宇和島市始メテノ空襲被害トス」。記事にあるように、単独一機が急降下して落としたようで、最初から宇和島市を標的にしたわけではないようです。しかし、一機ですが、死亡115人、重軽傷者81人、住宅・建物被害593戸、罹災戸数287戸、罹災人口1136人で、大きな被害を受けました¹⁴⁾ 5月12日に亀太郎は被害地を見舞っています。「午後五時ヨリ朝日町ノ被害地ヲ視察シ、附近知人ノ所ヲ見舞ヒタルガ、予想以上ニ被害家屋多ク、死者モ百名ニ達シタル模様ナリ」。

5月30日に、松山で大日本政治会愛媛支部の発会式が行われ、亀太郎はそれに出席し、演説もしています。「午前七時五十一分ノ列車ニテ出発、卯之町經由松山へ出張ス。午後一時着松。直チニ松山市庁楼上会議室ニ於ケル大日本政治会愛媛支部発会式ニ出席ス。土肥知事、越智市長等臨席。会員出席者約百名ニシテ、会則、綱領、宣言ヲ決議ノ上、幹事長佐々木長治氏ノ挨拶ニ次デ、予、登壇、意見発表ヲナシ、満場緊張ス。万歳ヲ三唱シテ三時閉会」。

6月8日、鈴木内閣最初の議会、第87臨時議会¹⁵⁾ (6月9日開会、6月12日

14) 『宇和島市誌』367頁。

15) 第87臨時議会には、沖縄陥落、本土決戦が必死の情勢の下、政府が必要な命令を出すことができる「戦時緊急措置法案」、また、男子は15歳から60歳まで、女子は17歳から40歳まで義勇兵役に服させる「義勇兵役法案」等が出されている。

閉会) 出席のため、上京の途につきます。

9日の午前に関院式、勅語、勅語に対する奉答文起草とその決議があり、午後本会議があり、鈴木貫太郎首相¹⁶⁾、阿南陸相、米内海相の戦況報告等がありました。この日の開院式、本会議には亀太郎は間にあわず、出席していません。

亀太郎は9日の夕方鎌倉に到着し、その夜、華宵宅に泊まり、翌10日登院します。しかし、その途中、空襲にあっています。「朝早く華宵方ヲ出デ、七時十八分鎌倉駅発ノ電車ニテ東京へ向ヒタルガ、空襲警報トナリテ七時四十分頃程ヶ谷駅ニ停車シ、乗客一同附近ノ丘陵ニ待避ス。敵機百機以上侵入ノ情報ナレドモ、曇天ノ為メ見ヘズ、投弾音ヲ聴ク。約二時間ニシテ解除トナリ、九時五十分程ヶ谷駅へ来レル上り列車ニ投ジテ帝都ニ入りタルガ、三月以来打続ク空襲、特ニ五月二十五日ノ焼爆ニヨリ、横浜以北品川方面一帯様相一変セリ。十一時衆議院ニ登院シ、直チニ戦時緊急措置法案ノ委員会ヲ聴キタルガ、鈴木首相ノ答弁甚ダ振ハズ¹⁷⁾ 午後一時休憩トナリ、次デ開会ノ本会議ニ出席ス。義勇隊、兵役法案等上程、三時院ヲ出デ、赤坂方面ノ焼跡ヲ視タルガ、戦災ノ範

16) 鈴木首相はこの時、太平洋で戦争を起こすと天罰を受けるなど述べ、それまでの歴代首相と一寸異なった演説をしている。「今日帝国ハ肇国以来ノ重大ナル危局ニ直面致シテ居ル…戦局ハ漸次急迫シ、遂ニ本土ノ一角タル沖繩ニ敵ノ侵寇ヲ見ルに至リマシタ…今日沖繩ノ戦況ハ洵ニ憂慮スベキモノガアリマス、聽テハ本土ノ他ノ地点ニモ敵ノ侵寇ヲ予期セザルヲ得ナイ情勢ニ立至ツタノデアリマシテ、今こそ一億国民ハ拳ゲテ此ノ事態ヲ直視シ、毅然タル決意ヲ以テ対処セネバナラヌ秋トナツタノデアリマス、…私ハ曾テ大正七年練習艦隊司令官トシテ米国西岸ニ航海致シマシタ折、サンフランシスコニ於ケル歓迎会ノ席上、日米戦争觀ニ付テ一場ノ演説ヲ致シタコトガアリマス、其ノ要旨ハ日本人ハ決シテ好戦国民ニアラズ、世界中最モ平和ヲ愛スル国民ナルコトヲ歴史ノ事実ヲ拳ゲテ説明シ、日米戦争ノ理由ナキコト、若シ戦ヘバ必ズ終局ナキ長期戦ニ陥リ、洵ニ愚カナル結果ヲ招来スベキコトヲ説キマシテ、太平洋ハ名ノ如ク、平和ノ洋ニシテ日米交易ノ為ニ天ノ与ヘタル恩恵デアル、若シ之ヲ軍隊輸送ノ為ニ用フルガ如キコトアラバ、必ズヤ両国共ニ天罰ヲ受クベシト警告シタノデアリマス」と。しかし、鈴木の結論は、「飽クマデ戦ヒ抜クコト…本土決戦態勢ノ整備」であった(『第八十七回帝国議会衆議院議事速記録』昭和20年6月9日)。

17) この戦時緊急措置法案に対して、議員側から議会史上空前絶後とも云うべき重大法案をわずか2日の臨時議会に提案することは、議会を軽視している、国民の生殺与奪を政府に白紙委任するものだ、憲法違反だなどと、鈴木内閣にかなり激しい批判をした。それに対し、鈴木首相は自分は耳が遠いので、よく聞き取れない、法律上のことは不得手でわからないなどと発言し、野次も多く、答弁不評であった(『第八十七回帝国議会衆議院委員会議録』昭和20年6月9、10日)。

困広ク、台町武内方モ跡形モナク焼ケ居タリ。四時再ビ院ニ帰り、六時出デ、谷中清水町ノ宇都宮孝君方ヲ訪問。更ニ市川市中山ノ浜屋浦吉君方ヲ訪ヒタルガ、主人ハ鴻台ノ別宅ヘ行キテ不在ナリシモ、家人ノ勸メニヨリ同家ニ一泊ス」。

6月11日、亀太郎は軍需省に行き、家業の木工会社の木製飛行機の資材の交渉などしたり、本会議に出席したりしています。「十時議会へ行き、十一時ヨリ霞ヶ関ノ軍需省ヘ行キテ、航空兵器総局第一局飛行機課ノ剣持技師ニ会ヒ、吾会社受註ノ囀機ニ就テ交渉シ、諸資材配給ノ指示ヲ受ク。偶空襲警報入りテ、待避始マリタレバ、予ハ急ギ衆議院ヘ帰りテ地下室ニ待避ス。午后更ニ軍需省ヘ行キタレドモ、資材関係ノ主任係官皆不在、更ニ課ノ疎開先タル世田ヶ谷区千歳船橋ノ桜丘国民学校ヘ小田急ニテ赴キ訪ネタルニ又不存在ナレバ、不得已新宿ヘ引返シ、電車故障ノ為メ、六時漸ク衆議院ニ帰ル。代議士会アリテ問題ノ措置法案ハ修正ニ決シ、会期モ亦一日延長ノ見込ナレバ、九時院ヲ出デ、闇黒ノ道路ヲ日比谷交差点マデ歩ミタレドモ、都電既ニナク、復院マデ引返シテ、十時ノ本会議ニ列ス。措置法案通過シテ、十時半出門、議員専用バスニテ新橋駅ヘ送ラレ、省線山手線ノ秋葉原ヨリ乗替ヘテ、予ハ夜半十二時千葉県市川ノ浜屋君方ヘ再ビ行ク。然ルニ来客アリシ由ニテ、尚起キ居タレバ、主人ト茶話ノ上、一浴シ、同家ニ宿泊シタリ」。

6月12日、午前ハ代議士会、總裁主催ノ招待会ニ出席したり、軍需省ヘ行き、資材ノ交渉等をしてしています。

6月13日は閉院式です。空襲激しく、敗戦を予感しているのか、議会も今回で最後になるとの感を記しています。その夜、帰国の途についています。「午前八時華宵方ヲ出デ、十時半東京ニ着シ、登院シタレドモ、本日挙行ノ閉院式ニハ間ニ合ハズ。十一時過議員食堂ニ於ケル島田議長ノ議員招待会ニ出席ノ上退院ス。内外ノ情勢ニ鑑ミ、東京ニ於ケル議会ハ或ハ之ガ最後ナランカトノ念、各人ノ間ニアルガ如シ。…二十一時五十五分発ノ鳥羽行列車ニ乗り、西行ス。之レニハ二等車アリテ、比較的雑踏セズ、座席ヲ得テ帰国ノ途ニ就キタリ」。

東京からの帰国後は家業の木工会社、木製飛行機の製作に取り組んでいます。

6月20日に、念願の国鉄八幡浜・卯之町間が開通しました。双岩の国民学校で開通式があり、それに参列しました。「待望ノ八幡浜・卯之町間鉄道運転ヲ開始シ、本日其開通式ヲ行ハルハヲ以テ、午前七時五十分宇和島駅発、高松棧橋行列車ニテ出発。卯之町、上宇和、岩城ノ各駅ヲ通過シテ、双岩駅ニ下車シ、同地国民学校ニテ挙行ノ鉄道局主催開通式ニ列ス。十一時開式、式後折詰ノ饗アリ。午後二時ノ臨時列車ニテ双岩ヲ発シ、三時半北宇和島ニ帰着」。

6月も空襲が続いています。宇和島市は6月22日と29日の2回に渡って空爆を受けました。6月22日は住吉町が空爆（爆弾）を受けました。この時も、前回（5月10日）と同じく、単独一機の行動でした。「朝、武田君来訪ス。昨夜モ警報アリシガ、本日モ午前九時頃ヨリ空襲警報トナリ待避ス。敵機数回ニ亘リテ数十機上空ヲ通過シ、内一機低空降下シ、朝日町ノ方面ニ投弾シテ去ルヲ見ル、時ニ九時五十分ナリ。十一時解除トナル。本日ノ爆弾ハ住吉町ニ墜チ、被害ハ前回ノ朝日町ニ比シ遙ニ軽微ナリトノコトナリ。午後会社ニ出務シ、夕方住吉町へ行キテ罹災ノ向ヲ見舞ヒタリ」。被害は死者9人、軽傷者18人、住宅・建物被害27戸、罹災戸数11戸、罹災人口31人でした¹⁸⁾

6月29日には、和霊町が空爆を受けました。これまでと違って、宇和島市を襲った焼夷弾による空爆でした。亀太郎の住む伊吹町の近くです。「午前〇時三十五分至近爆音ニ驚キ、蹶起スレバ、忽チ投弾音アリ。家族一同ト共ニ向ヒ家広場ノ待避壕ニ入りタルガ、前方和霊町方面ニハ敵ノ焼夷弾投下ニヨリ已ニ六ヶ所燃上リテ一面ノ火災トナリ居レリ。程ナク第二次ノ焼夷弾ハ赤染神社ノ山ニ数回散乱落下シタルガ、美麗花火ノ如ク。吾家ヨリ二町ヲ出デザル和霊校方面ニモ亦火災起リテ延焼ノ患アリ。家族ニ万一ノ場合ノ立退場所ヲ指図シテ警戒シタルニ、敵機ノ旋回一時半頃マデ続キテ後、其稍遠ザカルヲ待チテ消防ニ応援セシム一方、木工会社モ馳付ノ防空要員ト共ニ警備ニ努メ、三時頃迄ニ附近ハ大体鎮火ス。和霊下ノ火災ハ曉方ニ及ビタリ。午前中会社ニ出務シ又多

18) 『宇和島市誌』367頁。

数ノ見舞客ニ接シ、午後合同銀行等へ行キタル上、戦災地ヲ視察シタルガ、宇和島兵器会社ノ鉄工工場ヲ始メ、和霊町一、二丁目等ノ部分的焼失ヲ合セテ五十戸以上ノ被害ナリ」。この時の被害は、死者8名、重軽傷者20名、被害建物85戸でした。¹⁹⁾

7月に入り、ますます空爆が続きます。7月1日の夜、宇和島上空を次々とB29が通過していきます。呉方面への爆撃でした。「夜十一時二十分頃ヨリ警報出テ、直チニ空襲警報トナリテ一同待避壕ニ入ル。敵機続々通過ス」。そして、7月2日には九島方面が空爆(焼夷弾)を受けました。「夜来引続キ敵機ノ編隊通過シ、爆音間断ナシ。午前三時過九島方面ニ焼夷弾ヲ落下シ、炎上ヲ見タルガ、程ナク鎮火ス。尚待避ヲ続ケタルガ、暁四時半ニ到リテ漸ク解除トナレリ。五時間以上ノ連続通過ハ嘗テ見ザル所ニシテ、呉方面ノ爆撃往復ノ機群ナラント聞ク」。この時の被害は、死者はありませんでしたが、住宅・建物が17戸被害を受け、罹災戸数10戸、罹災人口56人となっています。²⁰⁾

亀太郎は7月7日以降、疎開の準備をしています。疎開先(高光村中平峰太郎方)を契約し、荷物を送っています。宇和島市では疎開荷物を搬送する人が多いです。

亀太郎が荷物を疎開させ終わった後の、7月12日の夜10時半から13日の午前1時にかけて、宇和島市の北西部、西南部が狙われ、焼夷弾による本格的な空襲を受けました。これまでの空襲の中では被害は最大でした。高島も一部被害を受けました。「夜十時半降雨劇シキ中ニ警報入り、家族一同向ヒ勝手元ノ地下室ニ待避シタルガ、程ナク空襲警報トナリ、ラヂオ情報ニ敵機十七機豊後水道ニ集結中ト聞ク。間モナク爆音聴ユ。空中閃光ト同時ニ投弾ノ音響キ続テ数回ニ亘ル光ト投弾音アリ。緊張待避ノ中ニモ一瞬出デ、外ヲ伺ヘバ、皆焼夷弾爆撃ニシテ市中ノ方面ハ一面ニ火災起レリ。敵機尚旋回爆音断続的ニ近ヅキテ、遂ニ吾家付近ニ焼夷弾落下スルニ至リ、塀ヲ距テ、長屋ニバケツ注水ノ気配ア

19) 『宇和島市誌』367頁。

20) 『宇和島市誌』367頁。

り。高島ニモ墜チタトノ声ヲ聴キ、急ギ地下室ヲ飛出シタルニ、土蔵ノ後方ニ弾片落ちテ燃ヘ居ルヲ以テ、予、雨中バケツヲ持テ走り行き、早く消シ止ムルヲ得タリ。其他長屋ノ屋根ニモ弾片落ち、後ロノ畑中ニハ大型焼夷弾落下スル等近距離ニモ尠カラズ、大小焼夷弾落ちタルガ、孰レモ隣組ノ敢闘ニヨリテ消火シ、大事ニ至ラズ。尚協力防空ニ努ム」。

7月13日に入っても空爆が続きます。「続テ降雨劇シキ中ニ敵機投弾シ、炎色赤ク附近ヲ染ム。予ト女中トハ出デ、本宅ヘ行きテ、貯水槽ニ待機、防火ニ備ヘ、妻ト忍及ビ重章ハ別荘ヲ守リ、敵機近ヅケバ伏セ、遠ザカレバ立チテ各油断ナシ。市中ハ西南一帯ニ大火トナリ、西北寄り朝日町方面ト覚シキ処モ亦火焰拳レリ。一方伊吹町ノ上手照護ト柿原方面ニモ二、三ヶ所火災ヲ生ジ、更ニ遠ク根無川ニモ火焰漲ルヲ見ル。午前一時過漸ク敵機去リ、爆音止ムト共ニ民防空活躍ヲ始ム。約二時間半ノ空襲ナリ。三時頃伊吹町付近ノ火災ハ大体鎮火シ、暁マデニ全市消火セリ。会社ハ稲岡主任以下要員ニテ護リ、吾宅共無事ナルヲ得タルハ幸ナリキ。之ヨリ先キ山本常一郎君、扇谷花子ト其嬰兒ヲ伴ヒテ避難シ来リ、井上君モ同様会社ヘ来ル。共ニ家宅焼ケタリトノコトナリ。兩三日前根無川ノ民家ニ預ケタル畳十二枚モ同方面ノ疎開鉄工所及ビ住宅十数戸罹災ト同時ニ焼失シタリト聞ク。朝七時ヨリ出デ、市中ノ戦災地ヲ視ル。朝日町、弁天町、寿町ハ一部焼失。大工土居君ノ宅焼ク。造船所ハ大体無事ニシテ、築地ノ甘藷倉庫、住吉町対岸ノ別荘地帯焼ケ、戎町、栄町一円、鶴島町ノ一部、袋町及ビ其浜通り全部、追手通、廣小路、裡町五丁目ノ一部モ焼失。市立病院、上田市長宅焼ケ、田中、中村、二宮卓、本三三好ハ辛フジテ残り、龍華前、鋸町、野川、丸穂、本町ノ一部焼ケテ、小泉、川野罹災ス。十時一旦帰りテ会社ニ詰メ、又見舞ノ人々ニ接シタルガ、午後一時ヨリ再ビ視察ニ出デ、丸之内、枳形町、御殿町等ノ被害地ヲ一巡ス。合同銀行、市役所ノミ残りテ、村山、三谷、日本木製、山本昇君宅、中学校ハ孰レモ焼ケ居タリ。三時帰宅シ、夕方和霊町松浦君方ヘ行きテ、吾本宅ノ奥座敷ヘ移住ヲ勧メ、予等家族一同ハ今夜ヨリ向ヒ家別荘ニ寝ヌルコト、ス。丁内隣組毎ニ一戸一人宛交替ノ不寝番ヲ置ク。

本日モ二、三回警報爆音アリタリ」。

この時の空襲による宇和島市の被害は、死者 28 名、重軽傷者 34 名、家屋の被害は焼夷弾のため大きく、住宅・建物被害 2272 戸、罹災戸数 2150 戸、罹災人口 9655 人でした²¹⁾ 市内の多くは焼失し、罹災者が多く出ました。親戚の山本常一郎宅一家も焼け出されています。ただ、伊吹町の亀太郎の自宅及び木工会社は被災を免れました。その後も宇和島市民は毎日空襲警報に悩まされます。

この空襲後、亀太郎は、再度の空襲に備え、自宅に新しい防空壕を作り、7月23日に着工し、28日に完成させています。また、亀太郎は、26日には会社建物の戦争保険の追加契約をしています。さらに、北宇和郡吉野生村奥野川の音地万太郎方に疎開先を求めています。いずれも亀太郎の用心深い性格が伺われます。

そして、その直後、7月末、松山市と宇和島市で、最大の空襲被害がありました。

7月26日には、松山市がB 29、約60機によって、焼夷弾による無差別爆撃を受けました(松山空襲、罹災戸数1万4300戸、全戸数の55%、死者・行方不明者259人、罹災者数6万2200人、全人口の53%)。この空襲で松山にいた亀太郎の娘夫婦(倭文・重雄)と孫達も焼け出されています。

そして、7月29日の午前零時30分頃、宇和島市は最大の空襲を受けました。焼夷弾攻撃で宇和島市内は焦土と化しました。また多くの知人が焼き出されました。そして、この日に松山で焼け出された娘夫婦が突然宇和島に疎開に来ています。「午前〇時三十分頃ニ至リ、敵機編隊来襲。家族及ビ土居多一郎君一家モ来リテ、共ニ新防空壕ニ待避シ居タルニ、忽チ上空閃キ、投弾音響キ、外部明ルクナレルヲ以テ、壕ノ扉ヲ少時開キ視ルニ、市中一面ニ焼夷弾落下シ、火炎盛ニ騰レリ。敵機旋回シテ反覆焼爆ヲ続クルコト約七回、和霊町方面モ順次

21) 『宇和島市誌』367頁。米軍資料によると、第314航空団のB 29、130機が12日23時13分～13日1時26分にかけて、872.5トンの焼夷弾を落とした(小山仁示訳『米軍資料日本空襲の全容 マリアナ基地のB 29部隊』)。

火災拡がり、和霊神社モ焼ケ落ちタリト覺シク、凄絶極マル光景ナリ。和霊国民学校ト一丁目ノ民家、先日焼ケタル附近ニモ亦火災起リテ、民防空陣敢闘シ、木工会社ヨリ一丁許ナレバ、危殆ヲ感ズルニ至リ、吾宅亦憂慮サレタルガ、幸ニシテ敵機直上ニ来ラズ一時半迄ニ脱去シタリ。依テ直チニ三丁目ノ消火ニ応援シテ、程ナク下火トナリ、其他市中北部一帯ノ火災ハ、夜明クル頃マデニ殆ド全部鎮火セリ。今回ノ火災ニテ和霊町二丁目ノ旧鉄道踏切以西、三、四丁目南通、東通、鶴島町全部、朝日町殆ド全部、本町、裏町、北町、丸穂殆ド全部罹災ト察セラレ、松浦輝義君一家族罹災シテ吾家へ避難シ来リ、本宅ニ居ラシム。河野芳太郎君モ焼出サレテ来ルナド、知人ニ罹災ノ向多ク、三原君宅、酒井君ノ店、安喜ノ工場、本町三好等数フルニ違ナシ。裏町四丁目ノ扣家一円吾等出生ノ場所モ焼失シ、戦災家屋今回ノ分約四千戸ニ及ブ。船舶ノ被害モ港内ニ尠カラザルガ、末広丸ハ吉田港ニ回航シテ坑木積込中ナリシガ為メ、難ヲ免レタリ。会社ニ出務シテ応急ノ事務ヲ指図シ、又宅ニモアリ、見舞ノ人々ニ接ス。午後松山重雄ヨリ二十七日出ノ葉書着シ、住宅全焼シタルモ、家族ハ無事立退キテ、不取敢郷田金生君方ニ避難シタリトアリテ安堵ス。然ルニ五時過重雄、倭文及ビ子供富子、英夫、春雄、重恭ノ四人北宇和島駅ニ下車シタリトテ突然来着ス。話ヲ聴ケバ当夜身ヲ以テ火焰ノ中ヲ脱シ、一物モ取出シ得ズ。子供ヲ護リテ新立橋ノ外田地迄落延ビタルガ、富子ノ如キハ一步先ンジテ家ヲ出デタル為メ、所在ヲ見失ヒ、翌朝町内会長ノ尽力ニヨリ玉川町一丁目ノ隣組ノ離散セル者ヲ集合ノ上発見、伴ヒ来レル由ニテ、苦勞ヲ嘗メ、避難先郷田、仙波モ亦吉田浜飛行場ニ近クシテ不安定ナル故、意ヲ決シ罹災民トシテ混雑ヲ極ムル列車ニ投ジ帰来シタリトノコトナリ。互ニ無事ヲ喜ビ、子供等ハ着後直チニ芝生ノ庭ニテ嚙戯スル等慰安ノ情景ヲ演ゼシガ、而シ宇和島ハ尚不安ト危険ヲ免レザルヲ以テ、万一ノ場合ヲ予想シテ一両日前借入ヲ約束シタル奥ノ川音地方へ松山ノ一行六人ヲ明日疎開セシムルコト、シ、西山君ト打合シテ、其用意ヲナス。夜、警報入り、予等ハ新壕ニ、松浦君等避難者ノ連中ハ旧壕ニ夫々待避シテ仮睡ノ中ニ一夜ヲ明シタリ」。

7月29日の宇和島大空襲の被害は、死者100名、重軽傷者172名、住宅・建物被害4228戸に上り、罹災戸数8268戸、罹災人口1万3980戸で、これまでの空襲の中で最大でした²²⁾この空襲で、宇和島市裏町の生家は焼失していますが、幸い、伊吹町にある亀太郎の家や工場は被害を免れました。

8月は敗戦の月です。8月6日に広島に原爆が投下され、8日にはソ連の参戦がありました。この8日の日に宇和島に最後の空襲があり、宇和島航空隊が爆撃されています。そして翌9日に長崎にまた原爆が投下され、遂に8月14日の御前会議でポツダム宣言の受諾を決定し、翌15日、正午に玉音放送があり、国民は敗戦を知りました。

亀太郎は11日までは宇和島の伊吹町に妻と孫の重章らといたしましたが、12日に高光村新屋敷の中平峰太郎方に疎開し、そこで敗戦を迎えています。8月15日の日記に次のように記されています。「朝食後、妻宇和島へ帰り、予独居ル。武者小路実篤全集ヲ読ミツ、静臥中、朝ノ『ラヂオ』報道ニテ、正午ニ重大発表アルベシトノ予報アリテ、正午ノ発表ニハ、陛下詔勅ノ録音ニシテ、米英支蘇ヘ対シ、日本ノ無条件降伏申入ノ御発表ナリシト伝聞ス。午后女中トメノ食物ヲ持チ来ル。夕七時ノ『ラヂオ』放送ヲ中平ノ本宅ニテ親シク聴キ、詔勅及ビ鈴木内閣総理大臣ノ諭告等ニヨリ、降伏ノ已ムヲ得ザル事情ト交渉ノ經過大要ヲ知ル。支那事変以来八年、大東亜戦争以来四年ノ戦争、茲ニ終ヲ告ゲ、而モ連合軍ノポツダム宣言ニ同意シタル結果、日本ノ武装解除ト版図維新当時ノ旧日本ニ縮小ヲ見ルニ至リ、感無量ナリ。夜、静カナリキ。晴」。

この敗戦の日、亀太郎は、悔しく、涙を流すこともなく、また、呆然自失することもなく、また、騙されたとの思いもなく、淡々と受け入れています。

(後記) これまで明治期から戦時体制下にかけての高島亀太郎について、その経済活動と政治活動面を亀太郎の日記を中心に、考察してきました

22) 『宇和島市誌』367頁。前記の米軍資料によると、第314航空団のB 29、32機が29日0時16分～1時25分にかけて205.3トンの焼夷弾を落とした。

が、論文作成にあたり、高島亀太郎日記研究会の人達（島津豊幸、矢野達雄、井川克彦、徳永高志、松野尾裕、高島澄江、高島麻子さん達）に日記研究会を通じて種々御教示を得ました。感謝申し上げます。とくに、戦時体制下については矢野達雄氏に御教示を得ました。末尾ながら感謝致します。